

## コメント

## 寄り添う「知」

松本 友一郎

(大阪大学 大学院人間科学研究科)

今回のフォーラムにおける議論について、自分で量的なデータを扱いながらも質的研究のことが気になっている院生という立場からコメントしたいと思います。結論から言いますと、心理学がたとえ科学であったとしても、得られた知見は目安くらいに思うのがちょうどよいのかなと私は考えています（量的、質的にかかわらず）。もちろん、私がこのように考えるのには理由があります。特に心理学を勉強し始めた頃によく感じていたのですが、「これは誰の話だろう？」、「どこの集団の話だろう？」という疑問がちょこちょこ浮かんでいました。今思えば、サトウ先生がおっしゃっていたような「質感」を感じられなかったのだと思います（もっとも、ここで何の違和感も無ければ、私は心理学にそれ以上の興味を持たず、研究もしていなかったのでしょうか）。

この「質感」というところに心理学の特徴があるのではないのでしょうか。心理学が目指す最終目標は「人間の生活に生かされること」だと思います。それは何かが便利になるとか、ネガティブな影響を緩衝するとかいうことだけではなく、特に意識していなかった自分の見方に気付いたり、新たな視点を得たりということも含みます（役に立つとか立たないとかではなく）。なお、伊勢田先生が「方法論としての質的研究と研究の目標まで含めた質的研究を分けて考えるべき」とおっしゃっていましたので、以降の話は後者の目標という点について議論することを先に明記しておきます。

心理学の特徴に話を戻します。心理学が他の多くの研究分野と大きく異なるのは、研究者が理解することと共に、広く一般の人に理解されることが求められている点にあると思います。つまり、荒川先生がおっしゃっていたように、「消費・流通」まで見通すことが求められているということです。タイトルにもそういう意味を込めました。人間の理解に寄り添うことができる「知」が心理学の目指すところではないのでしょうか（単純に何かしらの結果が出たということだけではなく）。

心理学というのは人間の生活に取り込まれてこそ意味を持つ分野であると思います。そのために、荒川先生がおっしゃっていましたように、可能態というものを提示して、人間の理解に寄り添う必要があるのかもしれませんが。心理学が必ずしも科学と呼ばれる必要はないのだと思います。科学の境界線をどこに引いても、心理学者が自分の方法論をちゃんと説明できれば問題ないのではないのでしょうか。科学としてではなく心理学としての必要条件は、村上先生がおっしゃっていた「ゲシュタルト」によってはじめて成立する理解や、質感を含んだ理解を得られることにあると思います。

家島先生がテレビを例に出しておられましたが、人間に関する知見を自分のものとする場合は、テレビのように最初からできあがりを提供することができません。むしろ、個人や集団の中で起きていることを追体験する必要があります。テレビを自分のものとする場合、テレビという機械の中で起きていることを追体験する必要はありません。電源やチャンネルのボタンさえわかれば十分です。人間を対象とする心理学では、量的研究で示されるような基本的なメカニズムと質的研究で示されるような総体としてのテレビ（個人や集団）の両方が求められます。テレビには「スイッチを入れる⇒映像が映る」というほぼ完璧なパターンがありますが、人間の生活の場合はまったく同じスイッチが存在しないため、固有であることを無視できません。

固有の個人や集団を取り出して議論する場合、伊勢田先生がおっしゃったような「対立になったときの解決」が難しくなります。量的研究は統計等の同じ知識を用いることによって、少なくとも同じ土俵で話ができるという利点があります。特に論文として提示した場合に、前提となる知識さえあれば、口頭での説明や質問と回答のやりとりがなくても同じ土俵に在ることを疑わずに済みます。量的な手法を用いる多くの心理学研究者はその土俵を「科学」と呼んでいるわけですが、伊勢田先生がおっしゃったように、それは総合的な判断に依らざるをえず、それもまた目安なのではないかと思います。よって、心理学の量的研究が科学とはいえない可能性もあります。実際、そのように考える人は一般にも他分野の研究者にもたくさんいるのではないのでしょうか。

以上より、心理学は人間に関するさまざまな目安を提示する分野なのではないかと考えています。心理学者の仕事は、なるべく人間の理解に寄り添いながら精度を向上させていき、開かれた「知」の共有を促進することにあるのではないのでしょうか。しかし、それを実現するために単独で最良となりうる研究方法は、心理学という研究分野には存在しないのかもしれませんが。ゆえに、量的、質的双方から多くの視点が求められるのだと思います。